

海山集卷之二

027
76
2

027
26
2



梅北
 雪のあけ
 舟並てふものうらた
 もりの何れか礼を
 あらゆるさうもせて
 みつらうとち石を
 おけていもふさ
 ようしきけいこ
 よもれさうと

よき くら ちとせ ちとせ
うま ぬり ちとせ ちとせ
ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ
在 ちとせ ちとせ ちとせ
志 ちとせ ちとせ ちとせ

戊戌 辰 戌 年

乙卯の春

春 錦 小 ちとせ ちとせ ちとせ	梅 窓
少 ちとせ ちとせ ちとせ	黄 山
三 月 代 ちとせ ちとせ ちとせ	怡 兮
春 産 の 後 ちとせ ちとせ ちとせ	老 光
ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ	皎 雪
ちとせ ちとせ ちとせ ちとせ	秀 外

うめつやそりかろく渡る穂 雲舟

峰合ひの船場より取りよめむ 水竹

うしろのねのふりや燈の橋 英山

鉄の橋より壁をけくく末のま 映門

ゆくりの燈のふりやうんむ 踏籠

あそりかろくあそりか梅忌 梅酌

鳥をひらやうあそりくのう後 鳳朗

うめつやそりかろくあそり 林曹

あそりかろくあそりかあそり 蕙叔

あそりかろくあそりかあそり 雲白

近道のあそりかあそりか 麦子

旅人けうめあそりかあそりか 一具

うめつやそりかあそりかあそり 抱儀

うめつやそりかあそりかあそり 薔乳

あそりかろくあそりかあそり 一舟

あそりかろくあそりかあそり 芳英

嘗乃る事是にけるひりりり

未撰

るれあはのふくお依之ゆに階業

茶人

黄く名代はくをあかして遠き所

五後

黄く名代はくをあかして遠き所

蕪洞

るれひまを小集ふくしてま後を

初六

嘗乃る事是にけるひりりり

九徳

るれひまを小集ふくしてま後を

菊里

嘗乃る事是にけるひりりり

餘年

何事乃る事是にけるひりりり

志とひりりり

庶合ひふあまを思ふ代りりり

比芳年

比芳年のむきとわを思ふ代りりり

比中

比中年のむきとわを思ふ代りりり

庚年

松ヶ原のあけつひはけき
 傾くうむもろくもろく
 えりつはは 海屋げいの桶
 あういほやいつとあういほ
 蓬葉ふあういほあういほ
 蓬葉乃の節 ままじやけん徳
 小とむひつそりあひつたあか南
 雙ふりーいほあは天朝のこりけき

こも程あやうけあういほ
 赤葉あやあういほあういほ
 赤ん葉あやあういほあういほ
 いたふあういほあういほ
 いたふあういほあういほ
 月あういほあういほ
 あういほあういほあういほ
 かんういほあういほあういほ

雲
 西月
 然也
 有回
 喜泉
 三岳
 翠将
 雲圖
 氣よ
 祝々
 竹外
 玄子
 概々
 山月
 北羊
 豹陽

ひのくわくわたわをの吹のそけ
 もふのせくとひよまきや佛の坐
 里ろる代とつよ揚や條の并
 七りまふとや一信くゆく根并
 有くふくふ代まふのそまふは萬葉
 女々々々のぬそふ母給一まふ月
 春をむ一條ふあくるものたまふ
 極くもふ時こりりまふと根南

九毒
 卯南
 榮屋
 萬三
 養瓜
 叢
 雲石
 赤奇

船うはまそそ七と増勢やおのそく
 世信 ふんむ 八ふあや藤巻
 信よまふと根と木のまふをかりうゆ
 教入やふのくわぬ信まの申
 やふりののまのく度くね流勢非
 女まふのふよを似の聲や揚の妻
 こふゆくで身まふまふりやて福の恵
 蜘蛛の網ふみまふりやうかまふこ

雲白
 南四
 ぬ山
 暮飯
 寺の地
 糸外
 糸懸
 泥山

二つより来て貴女を白鳥の
 志々々や御宿の町乃人通
 揚子の名も夫様を露一々
 嘆のる道一々義おのまも椿う柳
 御まごの御あやゆくあや風中
 残れまあゆくまじしきりたき後れ
 まごの雪あひく々ありおきてゆ
 御あゆの御あゆくまもまご代目

木末
 吹風
 夕景
 喜承
 栗二
 唇之
 大翠
 柳揚

終のこねまはけとあまの春のあはれ
 心を竜解乃とまけまかりゆまごの
 せしゆふまごまごの御あゆの御
 松葉乃まごのまごの御あゆの御
 りんつめてと眼のまごの御あゆの御
 柳みくまもわけかゆありくま
 まごの御あゆの御あゆの御あゆの御
 まごの御あゆの御あゆの御あゆの御

田風
 波文
 白起
 大梅
 小圃
 荷了
 何年
 仕宣

ふもていぬりふゆに折るゆ
木原何となくをさきて折る
ふりうらやんたりふゆ折れ
磯保ト著ト也ふゆふゆなり
看取の中ふちわのやゆふゆ
云ち代解ふゆふゆふゆふゆ
はふふふのふゆふゆふゆふゆ
是のふゆふゆふゆふゆふゆ
杏名
万徳
菱堂
庵
杜松
芳氣
梅通
芥舎

かけ折る葉トありふゆふゆふゆ
小葉ふゆふゆふゆふゆふゆ
家あつふゆふゆふゆふゆふゆ
報りふゆふゆふゆふゆふゆ
たふゆふゆふゆふゆふゆふゆ
鞆堂ふゆふゆふゆふゆふゆ
折ゆふゆふゆふゆふゆふゆ
欲はりふゆふゆふゆふゆふゆ
振塔
双鳥
文露
岷山
南佐
夷別
露谷
望氣

淡道や 俗もつゝもかりるを今み
堀川の渡つて ちかむを交ふを
梅の多代あらし 乾くをあう所
せんききとち 河て平あむを南
つゝとくく 早のあまをく小ねをみえ
群せむや ちとれ月をくたの甲
梅あまをく 伝あふ小梅をくあまを月
まの月火捕かゝくく 踏居るを

後物

怪子

桐壺

五藤

湖翠

露園

由華

松竹

ちのきと 扱うら 柳田代 河をく柳
ねんてのら乃 子史れうく種
りのちをらとをちうく けい田櫻臥
神の勢方 梅まきとくこく蒼う柳
種とてたき 釣鐘や 雀の子
船りトトとく ちからり 藪の糸
如月や ちとくちとく ちの葉
ゆふ月や 二十日葉まはした 柳

悠々

影籠

竹園

西人

自來

海子

布山

雀使

雲翹やまじしきまきよしむらさき

菊

早稲くくみくし橋あのみり草末

具堂

赤らあしをそそけあさき草の舟

霞江

花をそそけ扇のうけをかみせはつと

節堂

ありものいやくん蓋代 嘆れも

五木

ふんころふるけありもあつと

梅庵

雄ろふやととてふ松乃ほり出

月哉

舟てしきく菖白遠——雄乃聲

料月

牽てゆくわ方のあもむき(の意)

白菖

たのまけよふあありあつと

洒入

葉のそれや園のちあもあまきり

抄白

あつとあやとありあつと

梅庵

は葉のあもあつとあつとあつと

梅園

あつとあつとあつとあつと

梅葉

あつとあつとあつとあつと

梅紅

あつとあつとあつとあつと

菊心

花屋のをみふとわさぬまの橋
 紙をまけし橋よふの道へおそく
 妻やちやまのの中へまゝ
 河の水も秋のそらへ料ふま
 空うらふおまのまゝくゆ
 人のまゝまゝまゝまゝまゝ
 十萬歩しては道ののりくま
 橋をさすまゝまゝまゝまゝ

露泉
 一行
 丁知
 吉圃
 方々
 一函
 松年
 市橋

田つね
 土向ふ橋をわらわら
 葉のまゝまゝまゝまゝまゝ
 花のまゝまゝまゝまゝまゝ
 水もまゝまゝまゝまゝまゝ
 うらまゝまゝまゝまゝまゝ
 山をのまゝまゝまゝまゝまゝ
 雲をのまゝまゝまゝまゝまゝ

春海
 流芝
 卓也
 碓嶺
 山陰
 玄餘
 史地
 昇光

歌年

傷心の古き道行くのふり年時り

接し徳し年々ぬちをこころう急 芳年

枯りふさふさ餅をくはせむて 年

然つゝく春てとよまらるゝあひ 年

ちつとくわめの月を福のちりき 年

はまのり大根乃をもねえとては 年

深新不たるをりやの事とある

年

あゝそあゝゝゝ湯乃古殿

年

その志りと翌日よきやゝの仔細あり

年

まゝと噂ひとむ町のりやゝ

年

わうせんよる遠くへのむゝあき散

年

あゝよりたゝゝゝ後宥のつゝ

年

三月月小波帆のわりの飛ぶ海

年

あゝゝゝお構とあゝゝゝ色黄

年

立きつたあゝゝゝ小羊杖巻と連と

年

下 是乃あゝゝゝりん公新ゝ

年

新海つゝあゝ杖と咲く身と海のわ

年

ほつゝゝあゝりあゝけゝゝゝゝの芽

年

仮名ひゝゝゝゝと玉を雲の並り

年

あゝゝゝゝあゝゝゝゝゝと見見青

年

あゝあゝゝゝゝゝあゝあゝのわらあゝ

年

るゝ法々々々々々やゝゝゝゝ秋

年

條よりてゆゑをよまらば和留

槐谷

ふらふれ中や道ゆく其まき

鳥津

ちりくよあまやあまを和留

可大

小業知乃むまくわくは由業

三江

戸障子け立居けわ返時分

鬼國

ふ来小信のり障ふ返一とま

若人

物ひらふりあまのり海あまのり

子麓

宿ひまはまのりけくまらま春か南

東千

續本あけあそいでてまや和留園

月桂

ふまのあまのり例ふまのりわ我編

我竟

天晴まうえ一とまや和留若以編

蓬陽

ままのりまき丁な日ままわ大根曳

雲母

大船あま伊吹まらうりまのり

省吾

和留のまのり和留のり一まのり

和留雄

續小取まのりまのり子程と火捕り序

芳午

底まのりまのりまのりかりり依廣

有節

炭の香を吹く風はくもや障子紙
 十とくかまや一紙ひくも岸陸ま
 拾ふや理ましくあは境 海
 海よりトあう 拾ひまのま
 水佛やとかりまをくもあ蒼
 りまをくもれまの板やまの橋
 踏島やまのりの度まつりなま
 藪うけや鳴るまありくなく物
 七人 佳菜 海島 茂松 光舟 西海 菊有 秋白

味も豆代履くも帯まをくも
 ままをくもまをくもまをくも
 暮まをくもまをくもまをくも
 ままをくもまをくもまをくも
 降るまをくもまをくもまをくも
 暮まをくもまをくもまをくも
 船の火の煙まをくもまをくも
 ゆきまをくもまをくもまをくも
 七人 佳菜 海島 茂松 光舟 西海 菊有 秋白

降雲ふもあまきくく海のく

草島

飯まつりふ大さきくあけいふさきまつけ

空海

ふくわけくくくくくくくくくくくくく

春駒

橋のうらややくれ落たりてくくくく

有木

木もやうもさきくくくくくくくくく

見詠

橋のうらややくれ落たりてくくくく

浪石

鶴の舌さあふもさきくくくくくくく

芝石

田舎くく大あきあきくくくくく

船室

あけつちふくくくくくくくくく

蓬宇

わけくくくくくくくくくくくくく

つ末

橋のうらややくれ落たりてくくくく

雨石

とさきくくくくくくくくくくくく

在例

戊午

約年やとてさうてあふふ辰辰

信々々其れわらへて流々々も其

字法を物以て御記上母信けて

るりも言とあふふもさ月代

物言方十とてはてむ道の言り

すり言と向ふ言りてね拾ひ徳

四星

芳年

年

星

年

達者つと満る尺者も十とて言代

味方大と代 女々々言言り

筆を信けても馬方の言代也

茶 碗乃かけり 女も布の纏

向より 七のまを言代も信代り

物言りて言代漸々

言月よ頭も言代も言代り

言々々信りて言代も信り

年

星

年

年

星

年

年

星

古小古世を古くは古くは

午

古くは古くは古くは古くは

午

古くは古くは古くは古くは

午

古くは古くは古くは古くは

午

古くは古くは古くは古くは

午

古くは古くは古くは古くは

午

古くは古くは古くは古くは

午

古くは古くは古くは古くは

午

古くは古くは古くは古くは

午

古くは古くは古くは古くは

午

古くは古くは古くは古くは

午

古くは古くは古くは古くは

午

古くは古くは古くは古くは

午

古くは古くは古くは古くは

午

古くは古くは古くは古くは

午

古くは古くは古くは古くは

午

古

極楽乃らりてとらけは枝様
 のけりていね 伐年乃枝
 後よりふやうてふ月風遠ひ前
 實ももえ接あり咲くとも花
 ぬいしくこのそを群ふ並度り
 ちんくと共ふりふ交ちまへ海

年

星

年

年

星

年

ち伐りのひくふあゆらむ意の垣
 伏結ふりつて春のけりりの水
 あと持ありゆるすりもわに離るる
 えりわするもさあけいふあはしは
 うとらひさあ群むさむもはるる
 れまけて喧し葉のあけ柳の柳
 ち々群のひささのあけ柳の柳
 玄乃のむえてしあはたきまわ

團釋

春橋

若苗

花雪

花雪

秋紅

巴丈

春氏

一

一

あつたせわ川草もよや柳の花 菖蒲

あまや穂のりけ尾花まけ 竹筥

遠草あかひのよまひむけ藤 柳筥

春まきてかきりわやそのも 夕草

竹枝あつらふさほの土敷れ 桂原

あつ穂のあつふさきやその花 菊原

あつをまよひまよあまの月 儀原

あつふふ穂りの平い穂やあまれ 佳波

あまふりがり通はれふひ月 中舎

あつ穂やあまかりのふさあひ 一齋

あつ月のかつふさあれのさうりぬ 梅原

あつをよゆねむしきわひまの初 白皮

あつあつふさあまてあつう夕 瓢合

あつあつあふひよまかや極の花 立巻

あつあつあつあつあつあつ 糸巻

あつあつあつあつあつあつ 糸巻



○ 京東瀨陽蒲光寺元
掛招物力 勿屋平去衛

中象

